



CONTENTS NIHONGO-KYŌIKU TSŪSHIN No. 61/MAY 2008

- 表紙・特集……………1
関西国際センターの10年
国際交流基金関西国際センター
総務課長 内山 直明
 - 日本語の教え方イロハ 第7回……………4
音声
 - 授業のヒント……………6
“もっともっと”ことばで遊ぼう!
 - 新聞・雑誌から見る現代日本 第29回……………8
ロボット開発の今
 - 本ばこ (新刊教材・図書紹介)……………11
 - 文法を楽しく!! 第11回……………14
「によって」
 - KC (関西国際センター) 研修生の
Nipponレポート 第11回……………16
日本のお寺へ行きました
- ※ 本誌で、ルビが文字の下に付いているのは、紙や物差しなどでルビを隠して、漢字の読みの練習ができるようにするためです。

On the Web

http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/index.html
以下の記事はJFのウェブサイトのみにてご覧になれます。

- 日本語・日本語教育を研究する 第35回
「学習者の母語の活用」を考える
国立国語研究所日本語教育基盤情報センター
井上 優
- 海外日本語教育レポート 第18回
韓国の2007年改訂教育課程について
一外国語教育における文化を重視した改訂—
李 庸伯
韓国教育課程評価院 副研究委員

『日本語教育通信』 第61号

2008年5月発行

編集・発行 国際交流基金 日本語グループ
〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区
北浦和5-6-36

国際交流基金日本語国際センター制作事業課
TEL. 81-48-834-1184 Fax. 81-48-834-1187
E-Mail. jfnckt@jpff.go.jp

編集協力
株式会社アーバン・コネクションズ

*『日本語教育通信』の編集部連絡先は、国際交流基金日本語国際センターに移りました。

関西国際センターの10年

かん さい こく さい ねん

国際交流基金関西国際センター 総務課長 内山直明
こく さい こく さい かん さい こく さい そう む かな ちやう うち やま なお あき

はじめに

私たちの関西国際センターは大阪府の南部にあります。この土地は、既に8世紀の頃から和泉と呼ばれていました。建物は松林の続く海岸沿いであって、ここに立てば沖合5kmにある関西国際空港がはっきり見えます。

研修生が滞在する宿泊棟は地上18階建てで、ラウンジの広いガラス窓はすべて海に向かって開かれています。空港の向こうには大阪湾から六甲、淡路島が見え、振り返れば、吉野や熊野へ続く山並みが広がります。世界遺産に指定されている熊野古道に続く道も残されています。国際交流基金関西国際センターは、伝統文化の豊かな関西地域にあって、たいへん景色のいいところに位置しています。

関西国際センターの敷地の面積は20,716m²。鳥も遊びに来る広い中庭と周囲の木々は、四季の移り変わりを研修生に感じさせてくれます。センターは、高層18階の宿泊棟と低層2階の事務・図書館棟、研修棟からなり、145の宿泊室、LL教室を含めて19の研修室、4万冊以上の蔵書を有する図書館、食堂、ホール、そして事務室等があります。



海岸のほうから見た関西国際センター全景。手前の屋根は研修生が食事をする食堂

設立の経緯と目的

世界における日本語学習者数は、1970年代末には十万人程度でしたが、1993年には162万人に達しました。日本に関する興味の対象は、科学技術から政治経済、さらにはマンガにまで大きく広がりました。それにつれて、日本語学習者も従来と比べてはるかに多様となり、各専門の職業・研究分野で実際に役立つ高度な日本語力を養成する専門日本語教育の必要性が叫ばれるようになりました。

これに^{こた}答えるべく^{こうぞう}構想されたのが、^{わたし}私たちの^{かんさいこくさい}関西国際センターです。

関西国際センターの目的は以下の通りです。

○ 専門日本語研修の実施

外交官、公務員、研究者を対象に、専門分野別に高度かつ実務的な日本語教育を行なう。また、教授法や教材の研究開発も進める。

○ 日本語学習奨励研修の実施

海外で日本語を学ぶ青年層を主な対象として、彼らの日本への関心と日本語学習の意欲を高める。

関西国際センター設立構想は、1994年2月に政府において決定され、関係者の努力によって、約3年後の1997年5月26日、高円宮同妃両殿下のご臨席のもとに開所式が行なわれました。



開所式にご臨席になるため、センターに到着した高円宮殿下(左から2人目)と同妃殿下(同3人目)

地域との交流

開所式では、大阪府知事等関係者から、関西国際センターが地域の国際交流の拠点となつて、地元市町村と協力しながら国際交流、異文化理解プログラムを実施することを期待する、との言葉が述べられました。これに答えるように、設立と同じ1997年9月にはセンター周辺地域の自治体や民間の国際交流団体によって「関西国際センター研修生交流支援協議会」が設立されました。

この会は、「研修生と地元住民との交流を積極的に推進し、もつて国際交流の進展に資する」(同協議会規約)ことを目的にしています。同協議会が主催する恒例の催し「ふれあい交流祭」のときは、各団体が伝統芸能を披露したり、研修生たちが自分たちの国や文化を紹介したりします。子供たちにも異文化に触れる



ふれあい交流祭の様子。子供たちとインドネシアからの研修生

経験となり、会場となるセンターは多様な催しで賑わいます。

それ以外にも各団体は、春のキャンプ、夏祭り、ヨット体験、和太鼓体験、バレーボールやハイキング等多彩な催しを企画し、積極的に研修生たちと交流しています。センターとしても、異文化理解や日本語教育関係の催しを開催しています。

当センターが、「関西国際センター」という正式の名称ではなく、この地域ではむしろ「国際交流センター」と呼ばれるのも、地域の国際交流に果たしている役割が大きいからと言えます。

研修事業

センターが行なっている研修事業は、専門日本語研修と日本語奨励研修以外にも、地域貢献・協力の一環として、地方自治体や公的機関が実施する事業のうち主に日本語研修を共同で行うプログラムもあり、それは地域交流研修と呼ばれています。大阪府に着任して間もないJETプログラム(注1)参加者のための研修などがこれに含まれます。

また最近では、当センターに蓄積された専門日本語研修のノウハウに対する評価の高まりを反映して、国内外の外部機関から当センターでの研修を要請されることも多くなってきました。当センターでは制度を整備して、今後できる限りこのような研修も増やしていこうとしています。

各研修の参加者が当センターに滞在する期間は、研修ごとに数日間から8ヶ月まで様々ですが、1997年の開所以来現在までに延べ4,710人が当センターで研修を受けました。当センターでの研修を受けてすぐに在京の大使館に勤務する人も出てきましたから、これからは関西弁も話せる外交官が日本で活躍することが期待されます。

「日本語でケアナビ」

少子高齢化の進む日本の社会で、看護・介護を支える人材不足は大きな問題となっています。日本と各国の経済連携協定に基づき、これからは看護・介護の技能を持つ外国人が日本でも貴重な人材になるかもしれません。当センターでは、そのような外国人の日本語教育のため、2005年4月から「看護・介護の日本語教育支援データベース」開発プロジェクトを開始しました。既に専門を持っている人たちが外国語として日本語を勉強する場合に、どのように学習支援を行なったらいいかという点で、当センターに蓄積されたノウハウは、このプロジェクトを進める上でも生かされました。

2007年7月、このデータベースは「日本語でケアナビ」(注2)という名前でご一般に公開されました。日本語の学習者、学習支援者、周囲の職場の人々など多彩な利用者のニーズに応えることを目指して、様々な工夫を凝らしたこのサイトは、公開直後から広く注目されるようになり、2008年1月末でアクセス数は40万件を超えました。

「ひらく・つなぐ・つくる日本語教育の現場」

2008年3月8日センターは、10年間の経験を踏まえて、日本語教育シンポジウム「ひらく・つなぐ・つくる日本語教育の現場」を開催しました。これには200名を超える参加者がありました。

日本語教育の現場であるセンターを地域に対してどう「ひらく」のか、外交官、研究者、看護・介護従事者などの専門日本語研修において、どのように専門分野と日本語教育を「つなぐ」のか、そしてインターネットを利用して日本語学習支援ツールをどのように「つくる」か、ということをテーマに、様々な実践について皆で考えました。

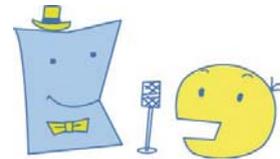
分科会に先立つパネルディスカッションでは「『日本語でケアナビ』と実践的コミュニティー」と



パネルディスカッションの様相。介護用語の英訳について専門家から発表。

題して、「日本語でケアナビ」の開発、公開、共有に係わった各領域の関係者の経験が語られました。実際に使う立場にあるフィリピン人ホームヘルパーからの発表もあって、参加者の関心を集めました。

ケー君シーちゃんは、このシンポジウムのために生まれた、私たちのマスコットキャラクターです。



ケー君 (左) とシーちゃん (右)

これまでの10年とこれからの10年

関西国際センターが設立された1997年、アジアでは経済危機が起きました。この影響で政府は財政構造改革を行い、国際交流基金の予算も1997年をピークとして次第に縮小され、2007年度の予算は1997年度に比べて約20%、44億円少なくなっています。

しかし他方、同じ10年の間に世界の日本語学習者の数は大きく増え、一層多様化してきました。2006年の調査結果(注3)によると、世界133カ国で298万人が日本語を学習しており、その数は10年前の1.5倍になっています。予算の削減という厳しい状況のもとで、日本語学習者の数の増大と多様化に対してどう応えようとするのか、国際交流基金の日本語事業全体にとって、そして関西国際センターにとっても、この10年はそのような難しい課題に取り組んだ10年でした。

この厳しい状況はまだ続くと思われまます。しかし私たちは、これまでにセンターに蓄えられた有形無形の財産を活用して、新規事業の可能性も探りながら、世界での日本語学習のニーズの高まりに応じていきます。そして、世界の日本語学習者から、いつまでも愛され頼りにされる存在でありたいと願っています。

国際交流基金関西国際センター

<http://www.jpff.go.jp/kansai/>

注1) JETプログラム

「語学指導等を行う外国語青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称で、地方公共団体が総務省、外務省、文部科学省及び財団法人国際交流協会(CLAIR)の協力の下に実施しています。
<http://www.jetprogramme.org/j/introduction/index.html>

注2) 日本語でケアナビ

<http://www.nihongodecarenavi.jp>

注3) 国際交流基金 海外日本語教育機関調査

<http://www.jpff.go.jp/japanese/survey/result/index.html>